

観光社会資本の事例

テーマ	小樽運河とふれあいの散歩道		
【施設の状況写真】			
			
<p>石造りの倉庫群や歴史的建造物などが運河に沿って並ぶ小樽運河と、並行する道路(臨港線)。まわりにはレトロなレストランなども多く、人気の観光スポットとなっている。</p>		<p>夜になると63基のガス燈の火が灯り、ロマンチックな雰囲気を醸し出す運河の水辺と歴史的風情を生かした散策路となる。</p>	
【施設の利用写真】			
			
<p>道路の横に設けられた街園。記念写真、待ち合わせ、ベンチで一休みする人で賑わっている。</p>		<p>運河沿いの運河プラザ(観光案内所)では地域主催のイベントも実施されて賑わっている。</p>	
【観光資源としての利用状況】			
<p>石畳の路とガス灯、異国情緒漂う小樽運河の風景が人気の観光スポット。整備された運河の周辺には、歴史的建造物を利用したレストランやガラスショップが並び、ガラス、オルゴール、木彫り、染織、陶芸など様々な制作体験が楽しめます。</p> <p>また、近くの散策路の沿道やその周辺には、多くの観光客で賑わう店などが出来ており、沢山の人が集まり散策を楽しみ、小樽の観光の目玉となっています。散策路を歩くと、微妙な情景の変化が感じられ、人々を飽きさせない、不思議な魅力になっています。夜には、散策路沿いにガス灯が灯り、やわらかな光が運河の水面に映えて、夢幻の世界が創出されています。</p> <p>小樽運河は、冬の小樽の代表的な風景として定着している『小樽雪あかりの路』のメイン会場であり、国内はもとより、東南アジアをはじめとした海外にまで、北海道の冬の魅力を発信するイベントとして成長を遂げ、平成15年(第5回)の来場者数は、過去最多の496,000人でした。</p>			

テーマ	小樽運河とふれあいの散歩道
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 臨港線</p> <p>所在地 北海道小樽市色内1丁目～色内2丁目</p> <p>事業名 シンボルロード整備事業</p> <p>事業主体 北海道</p> <p>事業期間 昭和57年度～昭和61年度</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>大正12年に完成した小樽運河は港湾施設として生まれ、港内に停泊した大型船からハシケという小さな船を利用し船の荷物を運んでいました。当時は、周辺に問屋街や金融街が建ち並び、小樽の心臓部として発展してきました。現在は運河としての役割を終えましたが、現存する重要な土木構造物として近代土木遺産(土木学会)に認められ、また、歴史的建造物などが並ぶ観光名所として新たな小樽運河が誕生しました。</p> <p>一方、小樽市中心部を走る国道5号は、近年の交通量の増加により慢性的交通渋滞を引き起こし、市民生活に多大な影響を与えてきました。このため、都市内の交通渋滞の緩和を目的として、国道5号と並行して走る都市計画道路「臨港線」を拡幅整備するとともに、小樽運河に隣接する沿線に「小樽運河ふれあいの散歩道」として散策路を整備しました。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 小樽市 http://www.city.otaru.hokkaido.jp/index.sub/kankou.htm</p>	